

#### 4) リストに掲載されている堆肥成分値の活用法

掲載された肥料成分値を活用した、施肥の考え方について説明します。

肥料費高騰といった現状から、ここでは慣行施肥量に対して窒素肥効・リン酸・カリの量が超過しない最も効率的な施用法を紹介します。

##### 手順

堆肥から供給される成分量（窒素肥効、リン酸、カリ）が慣行施肥量を上回らない様に施用量を計算する。

その施用量での各成分の供給量を計算する。

堆肥で不足する成分量（化学肥料施肥量）を算出する。

不足分を補うのに適当な化学肥料等の銘柄を選定する。

##### 水稲での計算例

リストの数値

氏名	畜種(原料)	AD可溶有機物	現物中の成分含量kg/t							水稲基肥窒素	穂肥窒素
			窒素	リン酸	カリ	石灰	苦土				
A	肉牛	146	10	11	18	10	5	0.4	-		
B	乳牛	264	23	23	39	33	15	1.3	3.5		
C	豚	123	8	39	18	23	11	2.1	-		
D	豚	400	29	52	18	43	14	6.1	1.9		
E	採卵鶏	-	22	54	30	202	15	5.8	-		
F	採卵鶏	-	48	50	26	119	14	30	-		

慣行施肥量の例 (kg/10a)

	基肥	穂肥
窒素	4	4
リン酸	8	
カリ	8	

堆肥 F（鶏ふん）を使用する場合

3成分それぞれを全量代替した場合の施用量を計算

- ・基肥窒素 4kg を代替  $4\text{kg} / 30 \times 1000 = 133\text{kg}$
- ・穂肥窒素は無し
- ・リン酸 8kg を代替  $8\text{kg} / 50 \times 1000 = 160\text{kg}$
- ・カリ 8kg を代替  $8\text{kg} / 26 \times 1000 = 312\text{kg}$

窒素、リン酸、カリの施用量が慣行施肥量を超えない 133kg を堆肥施用量とする

窒素、リン酸、カリの施用量が慣行施肥量を超えない 133kg を堆肥施用量とする

各成分の供給量を計算

施用量 133kg (0.133 t) 中の成分量

基肥窒素	4kg
穂肥窒素	無し
リン酸	$50 \times 0.133 = 6.7\text{kg}$
カリ	$26 \times 0.133 = 3.5\text{kg}$

堆肥からの成分量 kg

	基肥	穂肥
窒素	4.0	0.0
リン酸	6.7	
カリ	3.5	

不足する成分量（化学肥料施肥量）を算出する。

慣行施肥量			堆肥からの成分量			不足成分量		
	基肥	穂肥		基肥	穂肥		基肥	穂肥
窒素	4	4		4.0	0.0		0.0	4.0
リン酸	8		-	6.7		=	1.3	
カリ	8			3.5			4.5	

成分量kg/10a

適当な化学肥料等の銘柄を選定する。

例えば、わずかにリン酸とカリが不足するが、NK化成を選定  
成分 16-0-16 であれば 25kg/10a を穂肥として使用

#### 留意点

- ・ 土壌のリン酸や塩基が改善目標に達していない場合は、土壌改良資材分も含めて施用量を考えることができます。
- ・ 畑作物、園芸品目では窒素は速効性窒素と緩効性窒素から減肥します。  
ただし、この基準は夏期の肥効であることや、追肥のタイミングは品目や作型により異なることから、表示の速効性と緩効性窒素の基肥と追肥への配分は検討が必要となります。